

一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟

中・長期基本計画

◆理念

私たち日本知的障がい者卓球連盟は、スポーツの魅力と楽しさを伝え、感動を分かち合い、喜び合い、そして支え合うことで身体的にも精神的にも人格を鍛えるインテグリティの高揚を目指すことに向けて取り組んできました。

本連盟に関係する選手・コーチ・職員・役員のほか「かかわる全ての人」が共通の理解の目的をもち、『未来の理想とする姿』に向かって進み、またその姿を外部の方に理解してもらい、理解者・共感者・協力者を増やすことを連盟の基本理念とし、すべてのステークホルダーに、新たな価値を提供します。

【ビジョン】

2020年以降も知的障がい者卓球競技が国内で発展し、認知され、すべてのステークホルダーに理解され続ける中央競技団体を目指す。

【ミッション】

知的障がい者卓球を更にアスリートスポーツとして発展させ、一つのスポーツにとどまらず、パラリンピックを契機に、知的障がいのある少年少女たちの目標となる人材育成をおこなう。

◆中・長期 9 指針

1. 法令遵守
活動の実施及び活動費の使用に当たり、法令やその他諸規定を遵守するとともに、体制を整備し、高い倫理観をもって行動する。
2. 公正な会計
透明性ある事業運営として、財務、経理を適正におこない、公正な会計原則に則って事業を実施する。
3. 倫理
社会倫理に即し、本事業並びに関連する組織及び個人の名誉・信用を損なわないよう行動する。
中・長期基本計画推進に係る活動や決定事項に対して、私的な問題や利害関係を持ち込まない。
4. 事業活動
国内知的障がい者卓球の発展と普及啓発、日本代表の国際派遣、日本の障がい者卓球の発展に貢献する。
5. 情報管理
中長期基本計画に係る情報については、個人情報等に十分留意し、厳重に管理し適切に取り扱う。目的に反する使用や第三者への漏洩はおこなわない。
6. 現場の規律
ハラスメントや人種差別、スポーツ指導における暴力などを許さず、風通しが良く働きやすい現場環境づくりに努める。
7. 不正行為の防止
ドーピング、八百長、賭博等の不正行為の防止に努める。
8. 社会貢献と参画
障がい者の社会参加活動を促進、卓球を通じた教育と交流の輪を広げ、次の世代へつなげる。
9. グローバル
国際派遣事業を通じて、人種、宗教、言語を超えた国際人の育成と障がい者スポーツの発展に寄与する。
上記の指針に反する行動が確認された場合は、関係者間で早急に事実関係の確認を行い、原因究明と再発防止に向けた対策を講じる。

◆国内事業及び国際大会計画

【国内大会事業計画】

知的卓球競技の更なる普及を見据えて、多くの方に楽しんでいただける事業を計画・実施する。

また、競技人口が増えることを期待し、1大会は、神奈川県外で事業を開催する。

そのためにも3つの主催大会を定着させる。

- * 公式競技大会・・・パラ ID ジャパン・チャンピオンシップ卓球大会、パラ ID 全日本卓球選手権大会
- * 普及大会……………パラ ID ジャパン・年代別オープン卓球大会

【国内普及活動計画】

競技人口を増やす、10代以下の若手選手が大会へ参加することを推進し、育成をする。

- * 現状分析……………10代の連盟登録選手は全体の 29.8%（2022年度・登録者数 174名）
（男子 30%、女子 29%）
- * 今後の目標……………10代以下の選手を、年度毎に 10名ずつ増やし、45%を目指す
10代以下の選手の獲得（2022年度・1名）
- * 今後の計画……………体験イベントを9ブロック理事と協力し、毎年開催する。
パラ代表選手を掲載したチラシなどを活用し、特別支援学校などへ広報活動として配布する。
JStar プロジェクトを活用し、選手発掘・育成をおこなう。

【NT選手・NT候補選手：男女強化事業計画】

目標……………世界トップランク選手の健常者卓球界とさらに交流を深め、更にメダル獲得できる代表選手へと育成する。

- * 短期計画（1～2年）……………2024年パリ・パラリンピックへの出場権の獲得
 - Virtus グローバル大会での男女ともに優勝
 - アジアパラ競技大会での男女ともに優勝
 - ITTF Para ランキング 5位以内を目指す
- ……………2025年アジア選手権大会での男女ともに優勝を目指す
- * 中長期計画（3～5年）……………2026年世界選手権大会、アジアパラ競技大会で男女ともにメダル獲得
 - ……………2027年 Virtus グローバルゲームズ男女ともに優勝を目指す
 - ……………2028年ロサンゼルス・パラリンピックで男女ともに優勝を目指す

【育成選手・次世代育成選手：男女強化事業計画】

国内普及活動との連携で、次世代選手の発掘を促進させる。

強化合宿を実施し、NT選手を目指すための知識をつけるための、講習会を開催する。

アジアユースパラゲームズ出場を目指す。

【指導者養成】

中長期の計画として、コーチが障がい者スポーツ指導員の資格など JPC で推奨している資格の取得ができるような環境を整える。各種 e ラーニングを用いた教材の提供や、指導者育成につながる機会を増やし、幅広い視野を持った人材の育成をおこなう。

◆広報マーケティング計画

短期計画（1～2年）

- ・ ホームページのリニューアル（2023年10月予定）
- ・ パラサポ9団体の新スポンサーシッププロジェクトでのスポンサー獲得事業への参加
- ・ セールスシートの刷新、SNSを活用し連盟の事業の発信
- ・ 重点広報する都道府県の設定
- ・ 日本代表選手や候補選手、スタッフが地元での体験会や講習会といった活動の広報
- ・ 現在のスポンサー企業の継続
- ・ 独自のスポンサー獲得事業への展開

中期計画（3～5年）

- ・ 日本知的障がい者卓球連盟への継続的な特別協賛社の確保
- ・ 来場につなげるためのオンライン配信（YouTube等）
- ・ テレビやスポーツニュース・新聞のスポーツ面での露出拡大
- ・ 母体チームに関する情報発信（ホームページに掲載）
- ・ 大会のエンターテインメント化（スポンサー協力による来場者特典、JADAアウトリーチの開催等）

長期計画（2036年まで）

- ・ 連盟財源の3分の1は自己財源（会費、個人寄付、事業収入、企業協賛）となっている
- ・ 40年の実績を含む積極的な情報公開による団体の信頼性の向上
- ・ 収益事業の多様化（体験会収入、講師派遣収入、物販収入、ファンクラブの開設）
- ・ 既存パートナー企業の維持と新規開拓
- ・ 世界選手権の誘致

◆組織基盤

*現状分析・・・組織基盤の強化

定年制を敷いていない、女性役員が26%と低い、理事の永続年数に定めがない、マーケティング力の弱さ、自己財源の安定的な確保が必要。

*今後の目標・・・2025年3月末統合を控えているため、2024年度理事の任期は特別に1年とする。

定年制を導入（75歳以下）。但し、女性役員数が40%を満たない限りは、女性のみこの限りではないとする。

理事の永続年数を10年とする。

マーケティング事業及びWEB事業の組織化（専門業者への委託）。

*今後の計画

- ・ 障がい者卓球3団体（知的、肢体、ろうあ者）の2025年3月統合予定
- ・ 若手を中心とした人材の育成
- ・ より積極的な女性の登用
- ・ 幅広い分野からの人材登用

◆財務計画

東京2020パラリンピックが終わり、財務計画を今一度見直す時期と考え、財源と業績予測を会に示す。

総会員数の大きな変動は見られないが継続して会員数の向上に努めていく。自己財源については、大きな変動がない状況が続いているのは、スポンサー収益が多く獲得できていないことも要因の一つである。2022年以降は東京2020パラリンピック終了に伴いスポーツに対する予算も潤沢に得られない状況も考慮されるため、経営収益は大きく変わらないと予想される。

2024年に向けて、新しい生活様式をとりながら積極的な事業展開を行っていく。

短期計画（1～2年）

*現状分析・・・スポンサー数 2021年度：9団体、2022年度：12団体

スポンサー収益 6,223,000円（2022年度）

*今後の目標・・・スポンサー数 2023年度 15団体 800万円、2024年度 18団体 2,000万円

中長期計画（3～5年）

*今後の目標・・・スポンサー数 2028年度 20団体 3,000万円

